

ALCA-Next 2026年度 研究開発提案募集FAQ

No	カテゴリ	質問内容	回答
1	制度全般	応募準備で不明点がある場合、個別に相談できますか。	応募に関するご質問は電子メールでお問い合わせください。ただし、公平性の観点から提案内容に関する個別の事前相談には応じられません。
2	制度全般	英語版の募集要項や提案書様式は公開されますか。また、提案書を英語で提出してよいですか。	英語版の募集要項および提案書様式は、公募ページで公開しています。提案書は英語で作成しても問題ありません。ただし、採択後の手続き(契約書、計画書・成果報告システム等)は日本語のみでの対応となります。そのため、採択後は各種書類作成のために、日本語がわかる方のサポートを確保いただくようお願いいたします。
3	制度全般	応募に際して、機関承認が必要ですか。	応募時点では、承諾書の提出やe-Radでの機関承認は不要です。ただし、研究機関として必要な責務を果たせない機関での研究実施は認められません。そのため、研究を実施する予定の研究機関から、事前に承諾を得ておいてください。
4	制度全般	提案書などの応募情報はどのように取り扱われますか。	応募情報・選考情報は、ALCA-NextのPO、領域アドバイザー、外部専門家、GteXのPOなど、守秘義務を負う関係者のみが取り扱います。JSTは、応募情報を適切に管理するため、必要な措置を講じたうえで厳重に取り扱います。
5	制度全般	e-Radの研究者番号は誰が取得する必要がありますか。研究開発代表者だけで良いですか。	e-Radの研究者番号(アカウント)は、研究開発代表者だけでなく、主たる共同研究者も取得が必要です。取得方法の詳細については、募集要項をご確認ください。
6	制度全般	CRESTやA-STEPとの重複応募は可能ですか。	重複応募の制限はありません。ただし、採択時には「不合理な重複」や「過度の集中」が生じていないかの観点から、調整が行われる場合があります。
7	制度全般	面接は対面で実施されますか、それともオンラインですか。	面接選考の日程および形式は、ALCA-Nextの公募ページに掲載されています。最新の情報を公募ページにてご確認ください。
8	制度全般	主たる共同研究者とは、どのような位置づけの人を指しますか。	主たる共同研究者とは、共同研究グループを代表する研究者を指します。JSTは、この主たる共同研究者が所属する大学・企業などの研究機関と、委託研究契約を締結します。
9	制度全般	複数の研究開発機関の研究者で、1つの共同研究グループを構成できますか。	構成は可能です。ただし、 ・JSTが委託研究契約を結ぶのは、共同研究グループを代表する研究者(主たる共同研究者)の所属機関のみです。 ・研究開発費を執行できるのも、主たる共同研究者の機関のみです。再委託はできません。 ・ほかの機関でも研究開発費を執行したい場合は、別の共同研究グループとして、JSTと委託研究契約を締結する必要があります。
10	制度全般	1人で応募することはできますか。その場合は1グループのチームとして提案書を作成すればよいですか。	個人で応募することは可能です。その場合は、1グループのチームとしてください。
11	制度全般	企業と大学で共同で応募することは可能でしょうか。	可能です。企業が共同研究グループとして加わることもできますし、代表となることもできます。
12	制度全般	企業の研究者が研究開発参加者として参画する場合、JST-企業との間に契約が必要となりますか。	当該企業が予算配分を受け、予算の執行を行う場合には、JSTとの委託研究契約が必要となります。
13	制度全般	研究費が不要の場合、主たる共同研究者としてJSTと研究契約を結ぶ必要はありますか？主たる共同研究者として体制に加わらない場合、評価に影響しますか？	研究費が不要の場合は、主たる共同研究者としてJSTと研究契約を結ぶ必要は結ばないのいずれの体制も選択可能です。研究開発の目的を達成できる体制かという観点も含めて評価しますので、提案者ご自身で検討の上、提案書の作成をお願いします。
14	制度全般	企業研究者が研究担当者(研究開発代表者・主たる共同研究者)として応募する場合も、その研究者の人件費は直接経費の計上対象に含まれないのでしょうか。募集要項に人件費・謝金の対象が、「研究開発参加者(但し、研究担当者を除く)の人件費・謝金」と記載されているため。	原則として、研究担当者の人件費を直接経費から支出することはできません。ただし、複数の条件を満たす場合にのみ「PI人件費」として支出が可能となりますので、募集要項等の記載をご確認ください。
15	制度全般	企業と共同研究を行った場合、知的財産はどのような扱いになりますか。大学-企業のみで出願・登録することは可能ですか。	知的財産は、委託研究契約に基づき、原則として発明者の所属機関に帰属します。JSTへは状況を報告していただきますが、知的財産の取得・活用については、機関にて適切に進めてください。
16	制度全般	採択後に、研究開発代表者・主たる共同研究者の所属が変わった場合はどうなりますか。	異動先の機関・部署とJSTとで、委託研究契約を結び直す(変更契約すること)になります。なお、異動先の機関も、募集要項記載の機関の要件を満たしていただく必要があります。
17	制度全般	カーボンニュートラルへの貢献が掲げられていますが、CO2以外の温室効果ガス削減に着目した研究テーマは、プログラム趣旨に合致しますか。	二酸化炭素以外の温室効果ガスも対象とします。地球温暖化の抑制に貢献する提案を期待します。
18	制度全般	CO2削減の数値目標は必要ですか。	数値目標は必須ではありませんが、可能な限り科学的根拠に基づいた定量的な目標を記載ください。
19	制度全般	ボトルネック課題と同じような研究課題を提案しても問題ないでしょうか。	問題ありません。
20	制度全般	10年後、20年後に役立つような研究でも提案可能でしょうか。	提案可能ですが、ALCA-Nextでは、原則研究開始後4年度目にステージゲート評価があります。ステージゲート評価では、研究の質・量およびカーボンニュートラル実現にどの程度貢献するかという評価がなされるので、その点についてご承知おきください。
21	制度全般	「従来技術の延長ではない挑戦的な技術内容」とありますが、従来技術とはすでに社会実装されているものを指すのか、それとも基礎研究レベルのものも含まれるのでしょうか。	基礎研究レベルのものも含まれます。
22	制度全般	ステージゲートの通過基準はどのようなものですか。	募集要項「3.4 評価」にステージゲートの評価基準に沿って評価を行います。
23	制度全般	来年以降も提案募集はありますか。今回の募集テーマで継続して募集を行うなど予定は決まっていますか。	各年度の政府予算の成立状況によりしますので、現時点では未定です。
24	制度全般	「半導体」および「グリーンコンピューティング・DX」領域についても、GteXと一体的な運営を行うのでしょうか。	GteXにはALCA-Nextの「半導体」および「グリーンコンピューティング・DX」領域に該当する分野はございませんが、「GX実現に向けた異分野連携シンポジウム」などで、グリーントランスフォーメーションやカーボンニュートラル実現に向けて一体的な運用をしていきます。 ・GX実現に向けた統合的な研究開発ウェブサイト: https://www.jst.go.jp/program/cn/index.html
25	資源循環	バイオマスの活用は、「資源循環」領域に提案すべきでしょうか。それとも、「グリーンバイオテクノロジー」領域のどちらに提案すべきでしょうか。	「資源循環」領域では、バイオマスを原料とした、化成品などの合成手法や性能向上などの化学的な検討を中心に扱います。一方、「グリーンバイオテクノロジー」領域では、高収量・低環境負荷の実現や、植物機能の最大化など、バイオマスそのものを対象とした研究を扱う想定です。募集要項をよくご確認の上、より合致していると思われる領域への応募をお願いいたします。
26	資源循環	バイオマスの生物学的な利用は対象外とありましたが、生物学的利用というのはどういうことでしょうか。	バイオマスの生物学的な利用については、高収量・低環境負荷の実現や、植物機能の最大化など、バイオマスそのものを対象とした研究を想定しており「グリーンバイオテクノロジー」領域の対象となります。「資源循環」領域では化学的利用の提案を募集しているため、どちらの領域により合致しているかをご検討の上ご提案をお願いいたします。
27	資源循環	生物を利用した温室効果ガスを回収分離、利用するプロセスの開発は「資源循環」領域の対象になるでしょうか。「グリーンバイオテクノロジー」領域とのオーバーラップはどのように判断されるでしょうか。	「資源循環」領域では、バイオマスを原料とした、化成品などの合成手法や性能向上などの化学的な検討を中心に扱います。一方、「グリーンバイオテクノロジー」領域では、高収量・低環境負荷の実現や、植物機能の最大化など、バイオマスそのものを対象とした研究を扱う想定です。
28	資源循環	酵素を用いて汎用プラスチックの循環技術開発を行う場合、提案先としては「資源循環」領域と「グリーンバイオテクノロジー」領域のいずれが適切でしょうか。	募集要項をよくご確認の上、より合致していると思われる技術領域への応募をお願いいたします。選考過程において、研究開発提案について、横断的に技術領域間で選考に関する調整を行うことがあります。
29	資源循環	レアメタル、レアアース、貴金属の中で、特に重要で望まれる金属は何と考えられていますか。	資源の効率的な循環利用を低環境負荷で可能とし、温室効果ガス排出量の削減に大きく貢献するという観点等でご提案者様ご自身で対象とする金属をご検討ください。
30	資源循環	レアメタル以外の金属の資源循環も募集の対象になりますでしょうか。	レアメタルのみに限らず、資源の効率的な循環利用を低環境負荷で可能とし、温室効果ガス排出量の削減に大きく貢献する技術は「資源循環」領域の対象となります。
31	資源循環	都市鉱山といわれるような、廃棄物からの金属再生も「資源循環」領域に含まれるのでしょうか。	資源の効率的な循環利用を低環境負荷で可能とし、温室効果ガス排出量の削減に大きく貢献する技術は「資源循環」領域の対象となります。産業廃棄物などの再資源化技術も含まれます。
32	資源循環	3Dプリンティング技術は金属資源の循環利用プロセスと捉えられるでしょうか。	資源の効率的な循環利用を低環境負荷で可能とし、温室効果ガス排出量の削減に大きく貢献する技術は「資源循環」領域の対象となります。

No	カテゴリ	質問内容	回答
33	資源循環	製品や部品のリサイクルも「資源循環」領域に含まれるでしょうか。	単なる再利用のための技術開発ではなく、部品も含めて原料や材料といった資源の効率的な循環利用を低環境負荷で可能とする技術は「資源循環」領域の対象となります。
34	資源循環	バイオマスの炭化による生成物づくりは「資源循環」領域の対象となりますか。	非食性バイオマスを原料とし、温室効果ガス排出量の削減に大きく貢献する、科学技術パラダイムを大きく転換するゲームチェンジングテクノロジーを創出するご提案は対象となります。
35	資源循環	生分解プラスチックや環境で分解するプラスチックという研究も「資源循環」領域に含まれるでしょうか。	分解した後には再原料化等により大幅な温室効果ガスの削減ができる、循環型プラスチックであれば「資源循環」領域の対象となります。
36	資源循環	一般的にバイオ燃料と言われるものの研究開発については「資源循環」領域として応募可能でしょうか。	「資源循環」領域ではエネルギーフローやマテリアルフローの観点から、提案される技術の利用プロセス全体を通して温室効果ガス排出量削減へ貢献できることを前提としておりますので、そのような観点から応募をご検討ください。
37	資源循環	経済安全保障上重要だが、カーボンニュートラルへの量的な貢献度が低いような資源の循環利用については募集の対象になりますでしょうか。	具体的にどのような資源を指されているのかは分かりかねますが、ご応募いただいた際には、「カーボンニュートラル実現に大きく貢献可能な技術の創出が見込まれるか。」という観点を含む評価基準に沿って評価いたします。
38	資源循環	カーボンニュートラルに資する技術であれば、二酸化炭素や金属資源以外の分離回収技術についても募集の対象になりますでしょうか。	二酸化炭素の削減に貢献する技術であれば対象となります。
39	グリーンバイオテクノロジー	CO2以外の温室効果ガスも研究開発対象となりますか。	カーボンニュートラルの実現を目標とするため、例えばNO2、メタンなどの温室効果をもつガスの排出量削減に貢献する課題も対象となります。
40	グリーンバイオテクノロジー	バイオものづくりに関する研究開発も対象となりますか。	微生物等を用いたものづくりであれば対象となります。
41	グリーンバイオテクノロジー	生物系研究と物理、化学、情報科学など異分野の研究との連携・融合による新しい研究開発について、事例を教えてください。	例えば、生物系研究でおこなわれる品種開発を異分野技術との融合によって問題解決を目指すものです。具体的には、これまでの発想にない物理的な遺伝子導入方法の開発、植物には存在しない人工分子を用いた生育のコントロール、分析機器やセンサーなど用いた表現型の予測による育種効率の最大化など、様々な提案に期待します。
42	グリーンバイオテクノロジー	領域の対象とする技術イメージの図で水圏でのCO2吸収・固定化が示されていますが、開発対象はどのようなものを想定されていますか。	沿岸や水中の生物圏で高いCO2の吸収・固定化能をもつ微細藻類から大型藻類を開発対象と考えています。
43	グリーンバイオテクノロジー	ALCA-Nextの運営体制は、GteXと一体的な運営をおこなうとありますが、「グリーンバイオテクノロジー」領域ではどのような運営がおこなわれるのでしょうか。	ALCA-Nextは、GteXと比較して、もう少し基礎よりの研究開発を想定しています。GteX、ALCA-Nextに関して、「グリーンバイオテクノロジー」領域では、シンポジウムのような情報共有、意見交換機会の計画を想定しています。また、GteX/バイオものづくり領域で管理する施設・機器を共有して利用できる仕組みも検討し、これらを通して課題の加速化・高度化などを想定しています。一方で、GteX課題との統合により、GteX課題の加速化などのシナジー効果があると想定されるALCA-Next課題については、GteXへの編入も検討します。
44	グリーンバイオテクノロジー	アウトプットとの関連性について、どの程度までビジョンが明確になっていることが望まれますか。企業との連携など具体的にしている方が望ましいでしょうか。	提案が最終的にカーボンニュートラルに貢献できることをしっかり説明できることが重要です。研究開発の最初から企業との連携が具体化されていることは必須ではありません。
45	グリーンバイオテクノロジー	情報科学との連携ですが、単純にAlphaFoldなど利用可能な出来上がったものを駆使した研究課題は求められていないでしょうか。	既存の技術でも、その使い方が非常にチャレンジングな提案であれば求められます。また、既存には無い全く新しい技術開発の提案も求められます。
46	グリーンバイオテクノロジー	二酸化炭素固定能の向上で、エネルギーは、光合成に限定でしょうか。水素菌による水素利用は如何でしょうか。	光合成は二酸化炭素固定の大きな部分を占めますが、最終的にカーボンニュートラルに貢献できるのであれば、光合成に限定されません。
47	半導体	比較的低電力容量のパワー半導体、その制御回路などは今回の募集範囲に含まれないのでしょうか。	含まれます。
48	半導体	不揮発メモリーで想定する階層はありますか。	特にございません。エッジコンピューティングのオンチップからストレージまで様々な階層でご提案ください。
49	半導体	新しいパワー半導体材料等も御提案に含まれますでしょうか。	含まれます。